



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX：0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時  
 Web URL：<http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/> E メールアドレス：[ya-yato@arrow.ocn.ne.jp](mailto:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp)



10/11(日) 稲刈り



10/18(日) さつまいも掘り



# 収穫の秋！ 田んぼも畑も大忙し！

収穫の秋は、農産物だけでなく、当会を訪れる人々も大入り満員となっています。神奈川県や鎌倉市から里山体験の研修に来られる方々、企業や環境団体から大挙して来られる方々、当谷戸を根拠地としている青空自主保育団体などが次々に谷戸の保全活動に邁進しています。農閑期まで、まだまだ近隣や遠方からのお客様をお待ちしています。

お椀、お箸  
ご持参を！

**もくじ** ☆各班からのお知らせ→2・3p ☆谷戸の自然だより→4p ☆谷戸往来→p5 ☆谷戸の体験学習→6・7p ☆11～1月の日程表(裏表紙)

鎌倉中央公園フェスティバル第2弾(協働開催)  
**秋の谷戸まつり開催**  
 11/29(日) 10時～14時(荒天中止) 野外生活体験広場  
 炊き出し(谷戸鍋・餅・ご飯) 引き換え券頒布開始 11時  
 展示・紙芝居上演・頒布(新米など)・体験コーナー

# 各班からののお知らせ



## 田んぼ班

★11/1(日) 脱穀 ★3(火・祝) 籾干し・はさ片付け  
★14(土)、15(日)、22(日) 籾干し・精米・わら切り

10月に、田んぼ作業の仕上げの山となる稲刈りを無事に終わりました。たくさんの方の参加をいただき、ありがとうございました。

今年の収穫は、平年並みという感じです。

今後は、11月の脱穀から始めて、籾干しや、籾すりなど収穫後の作業と、来年の準備のための作業を続けていきます。



10/18 稲刈り



## 畑班

★11/1(日) 小麦の種蒔き  
★8(日) たのくろ豆の収穫・吊し干し ★15(日) 落花生の収穫・さつまいもの洞入れ  
★22(日) さといも掘り・洞入れ・たまねぎの移植



9/21 にんじんとかぶの種蒔き

今年は大きな台風の被害もなく、本来なら嬉しいはずが、8月中旬からの長雨と曇り続きのせいで作物の出来映えが、どんなかと心配しながらの収穫の始まりです。さつまいも掘りが終わり、これからはたのくろ豆・さといもの収穫です。

作付けした大根・にんじん・たまねぎ・冬菜なども頑張っ  
て育ってくれています。収穫祭の谷戸まつりでおいしい谷戸鍋ができるように準備をしています。収穫が済むと、もう来年のために小麦の種蒔き・芋類の洞入れ・堆肥作りにかかせない落葉かきの仕事が待っています。



## 雑木林管理班

★11/8(日) 雑木林を歩いて調査 ★15(日)、★22(日) 雑木林の除間伐



9/6 アズマネザサの除去

農繁期も終わり、いよいよ本格的な雑木林の手入れの季節です。今年、田んぼ周辺の柵の作り直しを、公園協会の支援や逗子のNPOの方の指導を受けながら、作業します。いろいろと忙しいシーズンとなりそうですが、安全第一で活動に取り組みたいと思います。



## 農芸班

★11/25(水) たのくろ豆の殻出し

昔、田の畔(たのくろ)に植えた大豆というのが「たのくろ豆」の由来です。現在では本田脇の畑と、体験田の小段谷戸の畔(くろ)に昔の風景さながらに植えています。根が張り畔が強くなったようです。11月中旬に収穫を迎え、吊るし干しをして乾燥させます。カラカラに乾いたら足踏み脱穀機や「さいづち」という手作りの棒で、リズムカルにとんとん叩いて豆を出していきます。今年も例年通りの収穫量が期待されます。殻出し作業へ、一汗かきにいらしてください。



9/11 草木染め



## 自然遊び班

9/13 (日) 里山探検隊「草木染め」で

は、谷戸の保全活動の一環として、草地に絡みついたクズのツルの除去を行いました。子どもたちは力を合わせて引っ張り、そのクズの葉を煮て染め物をしました。<参加者の感想>・今日はくさきぞめをする前、わゴムで石をむすんだり、お花をあつめたりたのしかったです。・わたしは絹の布を広げるのが良かったです。・久しぶりに秋の谷戸を歩いて風が気持ちよかったです。草木染めも違う植物でやってみたいです。(母)



10/18 里山一日体験「さつまいも掘り」が行われました。お父さんお母さんがスコップで周りの土を掘り、子どもたちが土の中を手でかき分けさつまいもを見つけました。親子で力を合わせて掘りあげたときには、喜びの歓声も聞かれました。また、バッタやカマキリなどの虫たちに触れ、谷戸の自然を満喫しました。参加者から、子どもと一緒に普段できない体験ができた、いつも食べている野菜がどんな手間暇がかかっているのか分かった、またいろいろな作業に参加してみたいという声が聞かれました。



### ★11/22 (日) 父と子の里山体験「伐って、割って、薪作り」

10時～14時 4歳～小学生までの親子対象 定員先着10組  
参加費：500円(会員以外の方)

昔の暮らしでは、雑木林の木々を伐って薪にし、燃料として活用していました。木を伐採し、薪にする作業を体験します。



## 生態系保全班

★11/4(水) カヤネズミの調査

★22(日) 野鳥の群れを探そう



9/16 カナムグラの除去作業

引き続きカナムグラの除去に励んでいます。根っこを抜くことが肝心で、1本1本抜いていきます。根気がいりますが生態系を保つためには必要です。アサギマダラを見ることができました。谷戸ではあまり見かけないチョウです。このチョウはセイタカアワダチソウの蜜を吸っているようです。セイタカアワダチソウ



アサギマダラの雌

も除去している草です。生態系の中に組み込まれた外来種をどうしていくか模索しながら活動しています。



## 植物育成班

★11/18(水) 秋の植物調査

数年にわたりアシの手入れをした効果

が出てきたように感じます。クズなどのツル植物が減り、ツリフネソウ、ミゾソバが湿地にたくさん咲いています。しかし手入れが出来ていないオギ原がたくさんあるので、アシやオギが枯れてくるこれからの季節は、アシ原の手入れをしていきたいと思えます。秋の野草を観察、調査をしながら、

種をとり、保護していく予定です。

また、ヒガンバナを増やそうと球根を分けて数か所に移植しました。来年の秋が楽しみです。



ツリフネソウ



10/7 植生調査

# 谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れ 畑その1～

山崎の谷戸（鎌倉中央公園）は、市内の他の緑地より自然が豊かです。それは田んぼや畑があるからです。林だけの緑地よりも、田んぼ(水辺)や畑（草地）があることでさまざまな生きものが暮らせます。それだけではなく、林、田んぼ、畑が隣接し混在していることで、生きものたちが異なる環境を往来し育っていきます。それが「谷戸」の自然の特徴です。

平地の広い畑にはない、谷戸の畑の素晴らしさとは何でしょうか。

## ①「谷戸の畑」は生きものの宝庫

生態系保全班では、毎月、植物やチョウの調査をしています。谷戸の中で最も植物やチョウが多いのが畑の環境です。畑に咲くさまざまな花に誘われて周辺の林や田んぼ、湿地からチョウが集まって来ます。土手に咲く野草の花は、何十年も生き続ける宿根草です。寿命が長く毎年咲きますが、容易には殖えません。このような野草が生えているのは、昔から地元の人が土手を刈り続けてきた賜物です。野草が咲いている周辺の環境も含めて、谷戸の畑を受け継いだことが景観や生きものの保全につながっています。谷戸の地形や土地の農文化がもたらした「谷戸の畑」の生態系は、平地の広い畑や家庭菜園では代替することができないのです。

## ②田んぼの生きものは畑で育つ

畑でカメの卵が見つかったことがありました。すぐ下の田んぼからカメが上がってきて産卵したのでしょう。シオカラトンボも畑で育ちます。田んぼで生まれたあと、産卵ができるようになるまでは、畑の周辺で餌を食べることに専念して、体を成熟させているそうです。畑で見かけるシオカラトンボ(♂)は、まだ青くない未熟(若い)個体がほとんどです。また田んぼにいる熟年？のシオカラトンボも、餌を取ったり、休むときは田んぼから離れて畑や湿地などに行きます。カエルは、普段は林の中に棲んでいます。オタマジャクシからカエルになったばかりの頃は、田んぼ周辺の草むらや畑で育ってから、林の中に移って行くようです。このように田んぼ（水辺）と林の中間に畑（草地）があることで、畑以外の多くの生きものが畑を利用するのです。

## ③畑を耕すことが生きものを守る

意外なことに、畑の土がむき出しになっていること（裸地）が、生きものを豊かにしています。原始林のような自然の中では畑のような裸地はとても少ないものです。生息や営巣のために裸地が必要なコオロギ、バッタ、一部のハチの仲間にとって、畑は貴重な環境になっているのです。また、それらを餌にする野鳥も増えます。モズやホオジロなどは、林だけでは生きられない野鳥です。山崎の調査で、行動圏の中に畑を含む場合と、湿地だけの場合を比較したところ、モズやホオジロの密度が3倍くらい違っていました。つまり畑があれば、狭い場所でもモズやホオジロが暮らせるようになるということです。文字通り、畑にしがみつekように暮らしている生きものがいるのです。

次回は畑の環境(農作業)と生きものについて詳しく紹介します。

## 鎌倉市公園協会主催のフォトコンテストに谷戸の会のメンバーが受賞しました

黒川敏史（田んぼ班）風景賞「天の恵」、内田益次(生態系保全班)生き物賞「谷戸へようこそ」が、11月10日～29日 湘南モノレール大船駅、12月22日～1月4日 鎌倉駅地下道ギャラリーに展示されています。